

新資材の利用設計研究（継続）

家具部材としての飾金具のデザイン研究

鮫 島 正 登 美

1 目的

木製家具の付加価値向上のための飾金具のデザイン研究を次の目的で行なった。

- 1-1 木の暖かみをもった木製民芸家具の良さをより向上させうるデザインの金具とする。
- 1-2 飾棚、和タンス等あらゆる和家具用の物とする。
- 1-3 それぞれの業者が、自社のビジョンに合ったオリジナル製品とする。
- 1-4 資材を効率的に利用できる物

2 概要

屋久杉民芸家具工場の進展に伴ない、製品の模倣等が目立ちトラブルが聞かれるようになり、それぞれの業者がその解決の一助として、自社のオリジナル製品としての飾金具を要望するようになった。要望に応じ他県企業では模倣のできない製品のデザインを行なった。

3 経過

デザインされた物を基に金型を作り、川辺町の金具製作所において、銅電鑄による金具製作を行なう。

金型製作に問題があるが市販の物より、2～3割り安くつく上に部品についての不満、不足も解消される。

すでにA社は数年前にデザインした物を使用している。B社は金型の発注を行なっているが金型が県内でできないので数ヶ月を要し製品に使用する所まで行っていない。

8 試作研究

木竹材を主体として、樹脂、軽金属材等により、軽工業品の研究開発を行うものであるが、これらは生活環境の急速な変遷に対応する業界からの要望等と相まって、その成果は、発表会等を通して広く公開し、業界指導と一般への啓蒙を行い企業育成の重要な事業である。主要なものは次のとおりである。

- 1 木材の改質並びに保存、内装材、複合材等に関する研究
- 2 機能性、装飾性に基づく新しいデザインによる室内調度品の研究試作
- 3 県産、硬質材及び竹材の強化材等による研究試作
- 4 離島産材による新製品の研究開発
- 5 樹脂利用、曲面転写技術等による仏だんの利用研究